重要文化財　大坂夏の陣図屏風（右隻）　大阪城天守閣蔵　豊臣方武将として真田幸村・大助父子、毛利勝永、大野治長・治房兄弟の姿が描かれる。

浮世の無常を心に秘めて

豊臣政権や徳川政権は、身分制度確立のため、武士たちに対し特定の主君にいちずに仕え続けることを強く求めました。これは不安定な境遇にあった武士たちにとって歓迎すべきことでした。しかしその一方で、天下統一達成後も繰り返された政権抗争などにより、大名の取りつぶし（改易）や領地の移転（転封）が繰り返されます。また時代の流れに乗って急速に出世する大名もあらわれました。乱世がおさまる最終段階は、武士たちの「大量解雇」と「大量採用」が同時に起きた時代でした。

今の安定した境遇が明日には失われるかもしれないし、今の不遇が明日には解決されるかもしれない。この世は定めのない「浮世」で、つらいことの多い「憂き世」。その中にあって自分自身はいかに過ごすべきか……。浪人に限らず、当時の武士はみなこうした思いを抱いていたに違いありません。

勇猛を愛する

徳川方は浪人たちを、みな食い詰めた無分別者だと軽んじましたが、真田幸村・毛利勝永など名のよく知られた元大名クラスの浪人、後藤又兵衛・塙団右衛門・明石全登などの元大名重臣クラスの浪人に対しては強く警戒しました。戦いが始まると案の定、彼らは有象無象の浪人兵士を統率して鍛え、精鋭部隊を一気に作り上げました。

冬の陣は講和に持ち込まれましたが、翌年になると徳川家は、秀頼に対して転封もしくは浪人の追放を要求。秀頼はこれを拒否して大坂夏の陣が起こり、豊臣軍は敗北しました。浪人たちの部隊は全て壊滅しましたが、後藤又兵衛は大軍に囲まれながら孤軍奮闘し、真田幸村は徳川軍のぶあつい先陣部隊をこじ開け、家康本陣に何度も突入を図りました。彼らにとっては、豊臣家への恩義や徳川家への反発心よりも、武士らしい生き方、戦い方を敵味方関係なく見せつけることのほうが大切だったのかもしれません。いずれにせよ徳川方はその戦いぶりに肝をつぶし、称賛する大名もあらわれました。

大坂の陣のあと、幕府は落ちのびた浪人やその子孫たちに厳しい追及の手をのばしました。しかし10年ほど経つと、逃亡や潜伏さえしなければ再び仕官してもよいとの方針を打ち出します。その後、元豊臣方であっても勇敢に戦い功績をあげたことが証明されれば高待遇で召し抱えられる、そういう者さえあらわれました。定めない浮世にあっては、今でいう「勝ち組か、負け組か」ではなく「武士らしさ」が何よりも重視されたのでしょう。

日月竜文蒔絵仏胴具足（後藤又兵衛所用）
大阪城天守閣蔵
後藤又兵衛は主君黒田長政と対立して浪人。
豊臣家に身を投じる。

✦学芸員のおススメコレクション✦

大阪文化財研究所　三葉葵文鬼瓦

この鬼瓦は、昨年の発掘調査で出土したものです。出土地は現在の大阪城天守閣の南東、重要文化財「御金蔵」の東隣にあたります。発掘調査では18世紀後半の大きなゴミ穴がみつかり、そこに捨てられていた大量の瓦とともにこの鬼瓦が発見されました。高さ81㎝、現存幅92㎝もある大型品で、家紋の直径も約40㎝、大人でも一人では持ち上げられないような重さです。1665 年に消失した天守を飾っていたものかもしれません。

三葉葵はいうまでもなく将軍家の家紋です。この鬼瓦は徳川家の権威を誇示するに充分なものであったといえます。　（大阪文化財研究所　学芸員　市川 創）

特別史跡大坂城跡　三葉葵文鬼瓦　大阪文化財研究所保管

※今回紹介した資料は、９月３日（水）～１１月３日（月・祝）、大阪歴史博物館８階で開催の特集展示「なにわの考古学2014」にて展示します。三葉葵文鬼瓦は全部で五個展示されます。　開館時間／ 9:30 から17:00 まで（金曜日は9:30 から20:00 まで）　※入館は閉館の30 分前まで　休館日／火曜日（祝日の場合は翌日）

大阪歴史博物館　所在地　〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32　TEL 06-6946-5728　FAX 06-6946-2662　アクセス　地下鉄「谷町４丁目」９号出入口からすぐ
ホームページ　http://www.mus-his.city.osaka.jp/news/2014/naniwakoko2014.html

大阪文化財研究所　所在地　〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35　アネックスパル法円坂 6F　TEL 06-6943-6833　FAX 06-6920-2272　ホームページ　http://www.occpa.or.jp/